レスリング・天皇杯全日本選手権

荒木田が初優勝（フリー120kg級）

今年度はジュニアオリンピック、全日本選抜、国体に続き4大会制覇

天皇杯全日本レスリング選手権が12月21日から23日まで、東京・代々木第2体育館で行われ、フリースタイル120kg級で荒木田進謙（経済3・光星学院高）が初優勝を遂げた。

荒木田は2回戦から出場。準決勝まで1ピリオドも落とすことなく、相手選手を圧倒しながら順調に勝ち進んだ。1年間の締めくくりの試合となる決勝戦は、気合いを入れてリングに上がったものの、対戦相手の負傷による不戦勝だった。

▲　準決勝で優勢に試合を進める荒木田（撮影・佐山）

今年度、ジュニアオリンピック、全日本選抜、国体に続いて4大会目の制覇となった荒木田は「今大会はきつい試合がなく、落ち着いた試合運びができたので良かった。決勝戦は、気心の知れた相手だったので、戦うことができず残念だった。今シーズンは全日本学生選手権で優勝することができなかったので、来年度はすべて勝てるように頑張ります」と語った。

また、同74kg級の江藤公洋（経営2・福島高）、同96kg級の馬場祐太朗（経営3・島原高）、グレコローマンスタイル55kg級の大谷康太（文3・向上高）の3選手がベスト8入りした。

（庄司　亮介・文2）

フェンシング・全日本選手権

阪野ベスト8（男子フルーレ個人）

福田（平16経済）が太田（五輪銀）破り優勝

全日本フェンシング選手権が12月11日から14日まで、新潟県の聖籠町総合体育館で行われ、男子フルーレ個人で阪野弘和（経済3・武生商高）がベスト8に入った。

準決勝で北京オリンピック銀メダリストの太田雄貴選手に惜しくも敗れたが「以前は太田選手から5、6点しか取れなかったが、今回は10点取ることができた。1年間の成長を実感する」と語った。また、今後について「海外遠征をして、国内だけではなく国外で勝てるようになりたい。オフシーズンに入っても気を抜かず、体力をより一層つけて、来シーズンにつなげたい」と話した。

また、決勝で太田選手を破り、2度目の優勝を果たしたフェンシング部OBの福田佑輔さん（平16経済＝警視庁）は「優勝できて、とてもうれしい。大学4年間で培ったものがあったから、今の自分がある」と話した。また、後輩・阪野に向けて「国外でも活躍してもらいたい。一緒に頑張ろう」とエールを送った。

なお、男子サーブル個人では山本幸治さん（平15商＝警視庁）が初優勝を遂げた。

（森住　綾・文1）

スキー

全日本学生チャンピオン大会

大森2冠　ユニバ出場へ

【クロスカントリー】

全日本学生チャンピオンスキー大会が12月22、23の両日、北海道の音威子府村で行われ、大森菜保子（経済4・花輪高）が女子の15キロクラシカル、スプリント1・2キロフリーで2冠を達成した。この結果、2月に中国・ハルビンで行われるユニバーシアード冬季競技大会の出場選手に選出された。

前回は5キロクラシカル、スプリント1・2キロクラシカルを制したが、今大会は得意のクラシカルで初の15キロに挑戦し、「楽しもう」と、自分の滑りを心がけた。レースは5位まで0・5秒差の大混戦となったが、最後に地力の差をみせつけた。「まずはインカレで一つでも多く優勝したい。ユニバーシアードでは前回（07イタリア）以上の成績を残すことが目標です」と語った。

5キロフリーでは大森が5位、下平恵理華（商4・飯山南高）が7位。下平は15キロクラシカルでも6位と健闘した。

また、12月26、27の両日に行われた全日本クロスカントリー音威子府大会でも大森は5キロクラシカルで2位、5キロフリーで5位に入賞した。

渡邉、木田ら健闘

【アルペン】

北海道道東シリーズが各地で開催された。第1、2戦にあたる糠平温泉GS（ジャイアントスラローム）大会が、12月13、14の両日、上士幌町で行われ、渡邉久瑠美（経済1・新発田商高）が女子の第1戦で6位、第2戦で4位と躍進。木田江里乃（経営3・北海学園札幌高）も第2戦で9位となった。

（山中　克浩・経済1）

スピードスケート・全日本選手権

道下「総合」9位

今野は1500メートル3位

全日本スピードスケート選手権が12月17、18の両日、群馬県総合スポーツセンターの伊香保リンクで開催された。4種目（500メートル、1500メートル、5000メートル、1000メートル）総合では道下雅史（経営4・白樺学園高）が9位。1種目では1500メートルで今野陽太（経営4・白樺学園高）が1分53秒27で3位に入賞した。

道下は「今シーズンで一番目標にしてきた大会だったので悔しい。勝ちたいという気持ちが先行してしまい、本来の自分の滑りができなかった」と話し、今野は「ワールドカップ出場選手が帰ってきた中で、3位になったことはうれしいし、自信にもなる」と振り返った。

1月の日本学生氷上競技選手権（インカレ）に向けて「スプリント陣が結果を出し、調子を上げている。みんなが実力を発揮できれば、インカレ優勝も夢ではないので、頑張りたい」（道下）、「大会を一つひとつ経験し、良い結果が残せている。インカレでは個人でもチームでも優勝したい」（今野）と意気込みを話した。

▲　5000メートルの最後のカーブで力をふりしぼる道下（フリーカメラマン・川口ひろし氏提供）

◇

12月5日から7日まで、長野県・浅間温泉国際スケートセンターで松本浅間選抜競技会が行われた。雨でレースが順延するアクシデントもあったが、1500メートルで今野が3位、坂井洸太（経営1・白樺学園高）が4位、5000メートルで道下が5位にそれぞれ入賞した。

また11、12の両日、伊香保リンクで行われた全日本学生選手権では、山越竜輔（経済2・嬬恋高）が総合8位となった。

（佐山　竜太・経済2）

ラグビー・関東大学リーグ戦

7年ぶり1部復帰ならず

関東大学ラグビーリーグ戦の1部2部入れ替え戦が12月13日、熊谷ラグビー場で行われ、2部2位の専大は1部7位の拓大と対戦し、12―34で敗れ、7年ぶりの1部復帰はならなかった。

榎本邦夫監督は「4年次生がまとまり、頑張って引っ張ってくれた。良いチームだったし、良い点を次のチームにも引き継ぎたい」と、敗れながらも健闘したチームをたたえ、来季に向けた手応えをのぞかせた。

（山中　克浩・経済1）

バスケットボール・全日本総合選手権

怒涛の追い上げあと一歩

全日本総合バスケットボール選手権が1月1日から12日まで、代々木第1体育館ほかで行われた。専大は2回戦から登場したが、初戦敗退に終わった。

対戦相手は関東代表の横浜ギガスピリッツ。「決して状態は万全ではなかった」と堤啓士郎主将（経営4・福岡大附大濠高）。序盤は互角の展開だったが、中盤に速攻などで最大28点差もつけられる。終盤、守りを変えた専大が約7分間を無失点に抑え、その間連続20得点を記録。怒涛（どとう）の追い上げを見せたが、64―70で逃げ切られた。

（新海　城生・経済4）

テニス・関東大学対抗選手権

Aチームが大会4連覇

▲　大会4連覇を達成し、笑顔の部員たち

女子の関東大学対抗テニス選手権が12月13日から21日まで、専大西グラウンドほかで行われた。シングルス3試合、ダブルス2試合の計5試合で争われる今大会。専大からは2チームが出場し、専大Aが準決勝で早大、決勝で亜大にともに5―0でストレート勝ちし、大会4連覇を達成した。

松重貴子（文2・秀明英光高）は「最初は早く試合を決めようと、打ち急いでしまっていたが、うまく気持ちを切り替えることができた」と語り、松山芳主将（経営3・静岡市立高）は「サーブ、リターンの1本目のミスが多く、ペースがつかめなかった。みんなの粘り強いプレーが結果につながった」と振り返った。

また静岡富士オープン（同8～13日、パピーテニスクラブ）の女子ダブルスで田中祐子（文3・広陵高）・東由貴（商1・静岡市立高）ペアが準優勝した。

（菅原　亜美・文1＝写真も）

記録コーナー

◇スキー部

▽JALカップ阿寒スラローム大会（道東シリーズ第3、4戦＝12月17、18日、釧路市）【第3戦】木田＝5位【第4戦】木田＝4位、清水香帆（法1・飯山南高）＝8位

◇馬術部

▽全日本学生馬術選手権・全日本学生馬術女子選手権（12月6、7日、JRA馬事公苑）【女子】鷲林舞（商2・前橋市立高）＝8位、吉田知子（商1・五条高）＝13位【男子】小田原頌（経営3・麻布大付属淵野辺高）＝13位